

地域に生きづく国有地（6）ありすの杜 南麻布(特別養護老人ホーム等)
（国有地は、国の庁舎等から地域に役立つ施設等に姿を変えて、地域貢献しています。）

ありすの杜 きのこ南麻布・ありすの杜 洛和ヴィラ南麻布

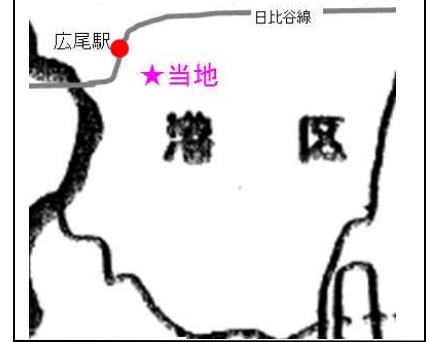
【東京都港区南麻布 4-6-1 11,105.06 m²】



北側玄関



一般貸出も行うセミナールーム



《財産の沿革》

この地は、もと自治大学校等でしたが、同校の立川市移転に伴い、平成 15 年に未利用となったことから財務局が利活用を検討する中、港区の要請を受け、高齢者保健福祉施設敷地として利用（売却）いただくべく諸手続き（国有財産関東地方審議会の了承を得る等）を経て、平成 18 年 3 月 31 日付で契約したものです。

《施設の概要》

- ・平成 22 年 4 月開設、整備費 56 億 7 千万円
- ・利用者数・・・約 400 人(特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・グループホーム・ケアハウス・デイサービス等)
- ・運営主体・・・社会福祉法人 新生寿会、社会福祉法人 洛和福祉会
- ・コンセプト・・・特別養護老人ホームが特殊な施設であるとの違和感を与えない外観で地域の方々と交流できる開放的な施設となっています。
全個室にはマイトイレを設置するなどプライベートスペースを確保しつつ、終の棲家として安心・安全を提供するために病院も併設し、ここだからできる介護を目指しています。

《地域への貢献・効果（担当の方への取材より）》

（区の担当者）

・港区の将来に向けた高齢者保健福祉施設建設・運営のモデルケースであり、これからも地域と連携していくことが、街そのものの活性化につながると考えています。

（施設の担当者）

- ・施設内に「地域交流スペース」として誰もが利用できるウェルカムトイレ、レストラン、売店などのほか、一般にも貸し出しているセミナールームを設置し、地域の方々が気軽に訪れられる集いの場・地域コミュニティの拠点となるように工夫しています。
- ・地域の方や入園者のご家族のボランティアによるカルチャースクール（茶道、書道、演芸など）の開催、施設の職員や入園者が地域の行事（お祭りなど）への参加、小学校の校外学習の受け入れなど、地域の方々と交流することにより、施設への理解も深まっています。

当時(平成 15 年頃)

現在

